

平成 28 年度 女性と市長との懇談会（2 回目）

懇談テーマ：わたしの住みたいまちはこんなまち

平成 28 年 12 月 1 日(木)10:00~12:00

中津川文化会館 2 階 2-3 会議室

出席者 女性 24 人 11 地区

市長・政策推進部長・定住推進部長・

教育委員会事務局長・女性活躍推進対策官

市長あいさつ

中津川市は合併して 12 年目を終えるところで、ひとつのサイクルとしては次のステップに移っても良い時期です。昨年、中津川市の今後 12 年間の総合計画を作り、その計画に沿って進めています。なかでも人口減少社会に対してどのように向き合っていくかが大きな課題です。

国は一億総活躍、地方創生という言葉を使っていますが、地域が生き残るための方法は地域自身で考えさせ、考えない地域は国も手を差し延べないというのが現在の流れです。したがって、魅力ある中津川市を作り、移住定住の条件として、子育て、教育、医療など様々なものをしっかり揃えたまちづくりのためにどうやって進めていくか、これが中津川市の総合計画です。

その中身に触れられるご意見をいただけるようお願いします。

行政は PR が下手です。毎月発信している広報を読めばわかっていたという思い込みがあります。ホームページでも情報発信をしていますが、かたいものになってしまう。それは、興味を引くだけの紙面やホームページでなく、確実に中津川市の事業を平等に皆さんにお知らせしなければならないということが根底にあります。そのため、事業を多くお知らせしているつもりですが、なかなか目を通していただくことができない。しかし、特に子育てに関わる内容、高齢者の介護、医療、福祉の事業は、全国でも高水準にあるという認識をしております。

それについてもご意見をいただけると思っております。よろしくお願いします。

司会

参加者のみなさんの自己紹介をお願いします。

名前と地区、話したいこと、思いを一言ずついただきたいと思います。

・〇〇さん

今日は小さい子どもを持った親としての意見が言えればと思ってきました。

・〇〇さん

生まれも育ちも東京で、中津川市は高校の 3 年間だけ住んでいました。大学も就職も名古屋です。仕事で富山に引っ越して、中津川市については一番知らないのですが、他の地域との比較はできると思っ

ました。子供を育てる環境として、自然がすごく近く祖父母と一緒に住める環境なので同居をしています。

・〇〇さん

子どもを保育園や幼稚園にあずけて、パートの仕事に行っています。働きながら子育てをしていくところで、これからこども園などの問題もあると思うので、意見交換できたらいいと思います。

・〇〇さん

育ちは中津川ですが、子供の頃、親の転勤で春日井市へ出ていたことがあり、ふさぎ込んでいた時期もありました。中津川市へ戻ってきて、自然いっぱい環境がすごく自分に合っているのびのび育つことができました。そんな中津川市が良いと思っています。子供に重度の障害があり、障害があってもなくても皆が育ちあえる中津川市について一緒に考えてもらえたら良いなと思ってきました。

・〇〇さん

苗木の子どもの増加と、保育に対しての問題点について色々な方から話を聞いてきたのでその話ができたらと思っています。

・〇〇さん

わたしは子どもがもう大きくなっていますが、未満児保育園に預けるなどして子育てしながらずっと働き続けてきましたので、子育てしながら働き続けるということ。また、今子育てボランティアをしており、今のお母さんたちと交流するなかで、どんなことを大事にしていけば子供たちが心豊かに育っていくのか。お母さんたちが何に困り、どんなことに向き合い、どのように一生懸命やっているとのかを共に考えていきたいと思っています。

・〇〇さん

生まれも育ちも中津川ですが、主人の転勤で14年程前に愛知県から戻ってきました。うちの子どもももう大きいのですが、愛知県で過ごしているときに長男に発達障害があることがわかり、どんなことを子供にしてあげられるか、行政や病院からどんな支援を受けられるのかをすごく学びました。転勤で中津川に戻ることが決まった時中津川について調べましたが、この子はここで育てられないと思いました。先に主人だけこちらへ来て仕事をはじめて、私は半年後に来ました。そこからの葛藤は大変で、どこに何を求めたらいいのかわからなくて、市役所に行ってもいい回答は得られませんでした。結局、犬山の病院へ3年間通院しました。そういう経緯もあります。今はずいぶん変わってきていることもわかり、学童保育をさせていただいていますが、悩んでいる親御さんを見てきていますので、中津川市でできることを具体的に探せるように、坂下病院などの問題もわかる範囲でいいので、今後の見通しなども聞けるといいかなと思います。

・〇〇さん

子育てについて話ができればいいなと思ってきました。阿木に来て3、4年なのでわからないことが

多いですがよろしくお願ひします。

・〇〇さん

恵那から嫁に来て、7年目になります。阿木は自然がたくさんあり、まわりの方が優しいので、これからは阿木のいい環境で子育てしていきたいと思っています。阿木は少し市街地から離れており、車で来ると30分程かかります。不便な部分も便利な部分もいろいろとありますので、この場で話し合っただけならと思ってまいりました。

・〇〇さん

今まで子育てしながら、こうして欲しかったこと、こういうことに困ったことを、意見交換できたらいいなと思ってきました。

・〇〇さん

神坂の狭い地域の中のことしか見ることができなかつたので、色々な地区の方の話を聞きながら、より良くしていくためのヒントが得られたらと思ってきました。

・〇〇さん

私は「すくすくわくわくまあるいこころ」というところに所属しています。子供が幼稚園に入ったときに、子育ての知識を得たらどうかということで養成講座を受け、子育て支援の立場で子供と関わってきました。山口地区は乳幼児学級のサポートをしており、UIターン住宅に入る小さい子はいますが、その後定住する段階で、住むところがないということで他の地区へ移る方も多く、いかに住み続けられるかということが各地区の魅力にもなると思うので一緒に考えられたらと思います。

・〇〇さん

実家の近くで生活しています。幼稚園の子が小学校へあがったときに働きたいと思っていますが、高齢の義理の父や母がおり、子育てと介護や世話をしながら働けるのか。義理の父に車の運転をやめさせても生活していけるような環境が整うのかどうか不安があり、皆さんのご意見を聞きたいと思ってきました。

・〇〇さん

生まれも育ちも坂下です。子供の年齢幅が広いので行事などの参加が忙しくて今は充実していますが、合併でそれぞれの地区の良さが消されています。坂下ならではの良さがあつたのに、今は中津川として一括りにされているところもあり、もう少しそれぞれの地区の良さを重視していただけたらと思います。女性は育児が終わると、次は介護になると思うので、それに対する助成、配慮も行政にいろいろ考えていただき、負担が少なくなるような女性に優しいまちにしていきたいと思っています。

・〇〇さん

生まれも育ちも坂下で、一度外に出ましたが、主人を連れて実家に戻って生活しています。坂下は自

然がいっぱいあり、のびのびと育つことができる感覚があって好きですが、市の方針もあり、びっくりするようなこともあって、お母さんの間にも不安が広がっている雰囲気があります。坂下にいると地元のことしかわからないので他の方の意見を聞きたいと思ってきました。

・〇〇さん

坂下も病院のことなど、いろいろ問題をかかえているのですが、多くの地区の女性と意見交換できたらと思っています。

・〇〇さん

11年前に中津川に来ました。結婚当初は名古屋に住んでいて、夫の実家がある川上来ました。自然があっていい環境ですが、活用しきれていない部分が多々あります。地域の方もとても協力的なので、話しかければ助けてくれますが、どうしても若い方だと声をかけることができないようで、そこに溝があるのかなと思います。UIターン住宅は満室なのですが、その後の土地の紹介がうまくいかず、定住していただけていないので、そこをやっていただきたい。中津川と坂下の間の交通機関がかみ合わず、共働きの家庭や、お年寄りの多い地域のため子供の送り迎えで悩むことが非常に多いのでそこを市にお願いしたい。JRが関わることなので、市だけではどうにもならないということはわかるが、私たちが言うよりも、上の方が言うことで一歩でも前に進めばと思います。

・〇〇さん

合併した頃に岐阜から転居してきて、当時小学生だった子供ももう就職しています。お父さんの転勤で1学年400人のマンモス校から、1学級8人の小学校に来て子供はカルチャーショックでした。コンビニやお店もなく、坂下まで車じゃないと行けない。お金を使うことを知らずに大きくなりました。環境はいろいろありますが、子供は苦勞することも勉強だと思っており、高校に通うにも苦勞して、それが子供の糧になっているのかなと就職した子供をみて思います。私は岐阜市にいて高校の同窓会はめったにないし、誰がいたのかも覚えていませんが、川上の主人の同級生は数人しかいないけど仲がよくて、先生の指導が良かったと思います。うちの子も小学校も中学校もあったかくてすごく先生が良かったという想いです。そういう良い部分もあり、いろいろな地域で過疎や介護の問題はあるけど、仕方ない部分もあるので、より良くやっていけるよう、市と地域が協力しながら、いい子育てができるまちができればいいと思います。

今、市の方でがん検診のチラシを配っていて、おじいさん、おばあさんのところに行くのですが、80歳以上で一人で暮らしている方がいて、タクシーで何千円も出して買い物や病院に行ったりしているのです。自分達の老後は大変な時代がくるなと思います。生涯現役で病気にならないのが一番と思いますし、以前は親を子供がみるのが当たり前だったかもしれないけど、子供を育てて家庭を持つことは大変で、それができなくなっている。中津川はとても良い所や、良い人もいっぱいいるので、医療費がかからないように健康でいるなど、いろいろ考えてお金を上手に使って暮らして、よりよいまちをつくっていけるようにできたらいいなと思います。

・〇〇さん

うちの長男は発達障害で支援を受けたのですが、中津川市が力をいれて支援を考えた時期だったのですごく良かったです。おかげさまで、支援をはなれて通常学級に入り、これからも何とかやっていけるかなとほっとしています。でも、長男が支援を受けたときは、はじまりの時期だったので熱心だったし、個別の支援が充実していたけど、それがシステム化したことで均質化されようとしていて、後輩のお母さんからは今は当時とは違うという答えが返ってくることもあります。一日の半分は支援クラスで暮らさないといけないなど枠組みが固くなってしまい、子供達や地域の状況に応じて支援を受けられることがなくなってしまった。地域ごとのやり方や合った方向があるはずなのに、中津川市に合併してそれが画一化されてしまったことを実感しています。そんな意見を聞いていただきたいと思ってきました。

・〇〇さん

生まれも育ちも横浜です。中津川も社員旅行で来ただけで、そのとき初めて妻籠と馬籠へきて、岐阜を知りました。お嫁にきて7年なので、合併前のことはわかりませんが、都会と比べて定住するのだろうかという意見が言えたらいい。

お寺に嫁いでいるので、人口減少は日々感じます。人口は増えて欲しいと思っています。

・〇〇さん

もう成人していますが下の子に障がいがあり、高校を卒業すると余暇活動がないので親で立ち上げてやっています。市で親と一緒にいなくてもできるような余暇活動のシステムを作ってもらえると嬉しいです。障がいの子の親の話を知ると、病院は岐阜や名古屋へ行ったりして、それが原因で引っ越し人もいると聞くのでそういう面を充実してほしい。

・〇〇さん

子育ての話ではないですが、ゴミ拾いを行う、「地球まるまるはっぴい計画」という市民団体をしています。市のごみ減量検討市民会議委員をしていますのでゴミ問題に関わって感じたことを話したいです。

・〇〇さん

蛭川で生まれ育ち、高校卒業後に愛知県へ行き、結婚して蛭川へ戻ってきました。若い頃には感じませんでしたが、生まれたところが大好きです。蛭川のお母さんは平均3人くらい子どもがいて、一生懸命子育てしています。私も集団生活になじめない子どもを支援学級へ入れたりしていますが、支援を手厚くしていただいて感謝しています。親が病院に通うときも、市の制度のおかげで仕事を休まずに病院へ送り迎えすることができ、助けられたことが何度もあります。子どもが大きくなるにつれ、高校へ通うのに親が一生懸命送り迎えしていることもありますので、それに関する意見も聞けたらと思います。子供が少なくなってきて、この先蛭川も人口が半分になるのではと思いますが、それでもこの地域が楽しいと思って子供達が暮らしていけるように、みなさんの意見を聞いて、前向きに考えられるといいなと思います。

・〇〇さん

愛知県から12年前に嫁いできました。おなかが大きい時にこちらへ来て、最初は知らない人ばかりで不安でした。近所を歩いている子供が「こんにちは」と言ってくれたことがすごく嬉しくて、良いところだと思いました。こういうところで子育てが続けられたら良いなと今も思っています。介護の仕事をしていて、介護士の不満もいっぱい聞いているのでそれについても話したいと思います。中津川市のことをもっと勉強したくて来ました。

懇談内容（要約）

・〇〇さん

中津川市は岐阜県下21市のなかで平成24、25、26年と家庭ごみ排出量がワースト1位です。私はごみ減量検討市民会議に平成26年に参加しましたが、有料化を導入するにあたり市民と話し合ったという既成事実づくりの会議のように感じ、共に作り上げていける内容だと良いなと思いました。私は市民の皆さんにワースト1位であることを知ってもらうためにチラシを製作し、六斎市などで配布するなどして中津川市のごみ減量に協力しています。フリーマーケットでは、市でも後援していただき感謝していますが、原発反対の横断幕や沖縄のことを取り上げるなら後援しませんと言われました。環境汚染や環境破壊をとりあげることが政治的活動とみなされるのであれば、ゴミ減量も政治的活動です。他市では環境イベントなどで反原発団体などが出展していますが、中津川市はどのような基準なのかどなたに聞いてもはっきりとした答えがいただけませんのでお願いします。ごみ減量を市と協働で行いたいと市民協働課に相談しましたが、ゴミ減量を利用してイベントをやりたいだけと言われ、協働への道のりの遠さを感じています。

ゴミ処理については年間11億円の税金が使われています。他市からの違法な搬入も行われ、有料化や、ゴミ袋の値上げもいたしかたないと思う反面、ゴミ減量周知がされておらずその成果は十分に出せていない今、導入は早いのではと思います。また、有料化の導入はごみ減量には有効と言われますが、それは家庭への負担が増えることからであり、循環型社会の意識が高まることとは違うように思います。恵那市の3R推進施設ふれあいエコプラザを見学してきました。毎年ベスト5入りしている恵那市との違いは単にゴミ袋の値段の差ではないと感じました。数字を減らすことも大事ですが、モノを大切にすることを養う施策もお願いしたい。ごみ減量の話をする中でゴミ拾いの方向へいくことがあります。他人が捨てたものを拾うごみ拾いと、日々の暮らし方を見つめ直すごみ減量では視点が違います。今の暮らしをそのままに、リサイクル強化と言われる人もいますが、そこにもお金と資源が使われますので、リサイクルをも減らす暮らし方をみつめ直す気付きの場づくりや、市民会議も定期的に開催してほしい。ごみ問題だけでなく行政には様々な業務があり、1つ1つに時間を費やすことはできないと思いますが、中津川市をより良くするために、協力したい市民も多くいると思いますので、柔軟に耳を傾けていただき、市民・行政が協力しあって、住み続けたいまちになるようよろしくお願いします。

・〇〇さん

チラシで中津川市がごみの量のワースト1位とみて、なぜそんなに多いのかと思います。私は家庭菜園をやっている草と戦っています。昔は燃やして良かったけど、今はトラブルにもなり燃やせないのがゴミ袋に入れて捨てるとうそい量になる。もしかして原因はこれなのかと思ってしまいます。いい処理

の方法はありますか。

・〇〇さん

私の家族は草を袋に入れて腐らせて肥料にしているので、燃えるごみとして出してはいません。量にもよると思いますが、そんなことができればどうかと思います。

市長

ゴミ問題は家庭のゴミの内容でずいぶん違います。先ほどの草の話や、高齢者を自宅介護されていればおむつなどさまざまな問題があります。私は草を燃やすのは賛成です。いま、「火事です」という情報で出動すると野焼きです。環境に悪いからとすぐ電話され、消防署も振り回されています。片方では環境というけど、実生活では苦しめられている。1つの問題を解決しようとする、その問題は解決できても、次にはかならず大きな課題がでてくるのがたくさんあります。環境に良いものを作っている工場などで、更なる環境破壊がされていたりします。なかなか気づきませんが人は快適さを求めると、どこかで快適さを壊している。課題を解決するとどうなるかを様々な情報としてとらえないと、最善な方法で問題を解決することは難しいのが現実です。

すべて解決することは難しい。早急に解決しないといけないことや少し先まで考えてそれぞれの課題を解決していかなければならない。合併前には8つの自治体はそれぞれゴミ袋の値段を設定していました。合併して新しくなった中津川市は、合併で大きく環境が変化するので、市民の皆さんに対応しようとしてゴミ袋を一番安く設定しました。しかし、それにより有料化の問題が出たわけです。

なぜ合併したかという話をします。以前は国も多くのお金を地方へ出していましたが15、6年前、国も財政が厳しい状況が続いて全ての自治体へ交付金を出せなくなり、平成の合併をした地域には特典を与える政策を打ち出して、合併した方が得という空気が全国に流れた。合併して良くなるという話は、合併論の中にはなかった。存続するために新しいまちとして力をつけて、今までできたことも我慢しなければならぬということだった。しかし、合併すると良くなるという話だけでその部分があまり表に出ていかなかった。良いから合併するということはほとんどないのです。

合併して地域の特徴がなくなると言われましたが、私はそうならないという想いで地域の特徴を出そうとしています。加子母では、教育の一体化として保育園、小、中学校一緒にして、市立の一貫性教育の学校を作ろうという議論がされています。私はそれが地域の特性になりますので、やっていただけて良いと思っています。坂下で有名なものは椈の湖のフォークジャンボリーですが、地元ではあまり言われない。地元では当たり前と気にしていないことが、外からみると地域の魅力につながっている。そうした魅力が中津川市のトータルな魅力の中にたくさんあるのでこれからも出していきたい。

今、中津川市の議会でも各中学校の生徒会のみなさんが議員になって提案をするという中学生サミットを開催しています。そこで去年ゴミ問題が出ました。実はゴミというものは、ある意味道徳的な判断になると回答しました。私はタバコを吸いますが、マナーを守らない者がタバコを吸う権利を言う権利はないと思っています。ゴミ問題の議論も同様です。

心の持ち方、環境をしっかり作る。ゴミ箱がなければゴミを持ち帰らなければならないといった気持ちになる環境を作ることが大切です。常々こういうことを考えています。

・〇〇さん

苗木の乳幼児学級の「ぴっころ」や苗木保育園でお母さんたちからの話を集めてきました。乳幼児学級を月に2回やっていますが、乳幼児の数が右肩上がりが増えていきます。苗木に引っ越してくる若い人が増えていて、未満児の子供がいたり、これから出産される方が多い。でもお母さんたちの行き場がない。公民館が新しくなり図書館も多目的ホールもできたけど、乳幼児は静かにしてられないので図書館にいられないし、乳幼児を連れていける公園も児童館もない。乳幼児学級は申込制で、年の始めに申し込まないと入れない。今年は少し改革して来年度からは入れると思いますが年度途中に来たお母さんがどこにも行き場がない。苗木のこともわからないという問題があって、いろんなお母さんたちから相談を受けています。行き場がなく、情報も得られない中で保育園は苗木保育園1つしかない。のぞみ保育園が平成30年から未満児専用になるが、今の苗木の未満児の数には合いません。未満児を中津川の保育園に預けて、他の子は苗木保育園や苗木小学校に通わせて働いているお母さんたちがたくさんいます。働いているお母さんたちはまだ良いですが、苗木には幼稚園がないから、働いてなくて未満児の子どもをかかえるお母さんは、苗木で子供を育てたいのに、苗木で預けられないという状況が問題になっています。未満児の乳幼児学級でも36名参加していますが、みんな働いていません。働いていないので保育園に預けられず、中津の幼稚園に預けないといけません。でも、子どもが小学校になったときに、60名のうち中津の幼稚園からくる子は1割にも満たないです。子供がなじめるだろうかとお母さんはすごく不安になる。これから人口の増える苗木に幼稚園のようなものができて欲しいと思っています。

平均の所得世帯の人は、学童や保育園、未満児保育などのお金も払わないといけなくて、家事も仕事もしてへトへトになって手元に残るお金が1、2万円というお母さんも結構います。だったら、働かなくても苗木で育てられるなら幼稚園ができれば、子供が小学校まで上がるまではそばにいてあげたいというお母さんもすごく多い。働いていないお母さんにもやさしい保育ができるような環境づくりを考えていただけたらと思っています。

・〇〇さん

阿木は小さい子が遊ぶ公園や児童館がなく、乳幼児学級もできていないので子育てサークルをお母さんたち自身で立ち上げています。子供を遊ばせる場所がないと子供同士の成長にもかかわるし、お母さん同士の交流の場もないので、子育て支援センターや児童館ができれば良いなと思います。阿木交流センターが計画されていますが、その中に子供が遊べる場所を作っていただきたい。外にも小さい子供向けの遊具も設置していただきたいです。

わくわく広場の代表として、わくわくネットワークに参加させていただき、他の地域はどこにも乳幼児学級があることを知りました。阿木にも乳幼児学級ができればありがたいと思っています。

・〇〇さん

阿木も阿木保育園しかありません。未満児も1歳以上しか利用できず、4名までしか入れません。中津の保育園に預けて働いて大変な状態の家族がたくさんいます。幼稚園をつくれれば自由に動ける人がたくさんいます。それも考えていって頂きたい。

・〇〇さん

大きい小学校を持つ坂本でも数年前にやっと児童館ができました。中津川市のなかでも地域によって環境が全然違うと思いますが、共通して言えることは、中津川市は良いところだと住んでもらい、人口を増やしたいと思ったら、子供を大切にすまちづくりをしていただきたいということです。多くの子供たちが大きくなり、ここで定住して家庭を作り人口を増やしていくということを考えたときに、今の子育て家庭を支援していくことが、数十年先の中津川市をみたときに、はじめて施策として実になるということを真剣に考えていただきたい。自分の子どもたちがこのまちで仕事をして、住んでくれるかなと思ったときに、当然ここに住むでしょと言えるようなまちづくりの体制が少し欠けていると思います。1つ例をあげると、中津川市の子育て関連の部署で働く人の数がものすごく少ないと思います。市内に多くの学童保育があるにもかかわらず、改善していくことなどに本当に少ない人数で対応しています。ものすごく大変だと思います。この会議の中でも障がいや発達に問題があるお子さんのお母さんも何人かいますが、全ての窓口になる子育て政策室が、どれだけの人数で回しているか知って欲しい。その子供たちが大きくなったときに、作業所などの色々なところに視野を広げていきます。高校までは支援学校へ行き楽しませていくことに力を貸してくださるところはあっても、そこを卒業してしまったら、誰もその子供たちが楽しい活動することを助けてくれるところはありません。

市長

坂本でも、ようやく児童館ができたと言われたように、今そこに目を向けていっています。一生懸命力をいれていかなければならないことは十分承知しています。中津川市が合併して一番しっかりやってきたことは職員の削減ですが、様々な分野で職員が必要ですので、今見直しをしています。遅れていることを直したいと思ってやっており、子育てについては力を入れなければいけないというスタンスで取り組んでいます。先ほどお伝えしたようにトータル的に解決していく必要があります。その先にあるものを見据えて話をしなくてはならない。この問題だけ解決するとなるとまた別の問題が出てきます。また、苗木地区はこれから人口が伸びるところなので、絶対やらなければならない地域です。中津川市の幼稚園、保育園は民間と市が半々くらいです。恵那市はほとんど委託でやっています。民間力でこれから人口が伸びる地域にはどんどん入っていただきたい。それには色々な問題もありますが、苗木地区は居住するところとしてウェイトが高くならなければならない。そのためには子育て環境や生活の利便性をしっかりつくらなければならない。そんな位置づけをしているということをご理解いただきたい。

・〇〇さん

取り組みが市民に伝わってこないから皆さん困っています。大きな夢よりも、現在困っていて、明日、明後日、一年後のことで悩んでいるのが市民です。ビジョンはわかりますが、今の乳幼児学級、保育園、幼稚園、小学校の状態を意見としてひろってもらえて、それに対してどう考えていこうと意見を返してもらって具体的な策を作ってもらえれば不安が少なくなり、意見が言いやすいところができるのではないかと思います。市民の何割が未満児や小学生ということが人口比率でわかると思うので、そこに対する人員の数が全体のどれくらいかを把握して頂いて、子育て政策のところで話を詰めていただけるといいと思います。中津川市で約20カ所の学童保育がありますが、その学童保育所を束ねている人がわずか2、3人の体制で悩みを言われていることをわかっていただいたうえで、中津川の環境がどうだという話に

なってくるといいと思います。

市長

今言われたことは常に感じながら話をしています。人の配置については環境・介護・医療すべて、人の問題で悩んでいます。国や県とも職員派遣のやりとりをする中で人をやりくりしているのも現状です。子育てに力を入れなければならないというのは充分わかっているのでジレンマです。本日様々な話が出ており、1つ1つの事例について話し合うには時間がなさすぎます。子育てについて改めて担当部署を交えて懇談会を行わせていただくことを約束します。

・〇〇さん

学童の規定には有資格者が必ず常勤でいなければいけないという規定があり、安全のためには必要だと思いますが、地域としてはそれを守り、運営していくことは非常に困難です。各地域でその規定のために運営が難しく、学童ではない形で運営しているという話も聞きました。地域の特性にあわせて運営できる学童が本当に大切だと思うので、もともと親が発信して自分たちの力で作り上げてきたものを、行政の規定によって制約がかかることはどうなのかと思います。社会的にクレームに対応するため規定が厳しくなっていると思いますが、本当に何が必要かを考えて施設を運営していただきたい。

教育委員会事務局長

規定があるのは子どもさんがより安全に過ごしていただくためのもので、安全のためにも曲げることはできないと思っています。学童ではない形や放課後子ども教室など地域の方の協力を得て運営できる形もあるので、学童ととらえると問題が大きいが、地域の事務所と一緒に考えていけることだと思うので、担当とゆっくり話をしていただきたいです。

市内ではしっかり取り組んでいただいている方ばかりですが、中には預けられればどんなところでも良いと子供にとって良い形になっていかないところがあるかもしれないので、そのための規定です。また相談していただきたいと思います。指導員不足もあり、各学童への補助金を上げることも考えていて、改善して指導員に集まってもらえるような対策をしていますので、また地域の方と相談したいと思います。

・〇〇さん

山を丸裸にしてソーラーを載せている場所が苗木にいっぱいできているのですが、うちの近所の通学路でソーラーのため全部山を削って、大きい岩がむき出しになり、いつ転がってきてもおかしくない状態のところがあり、その斜面の下を子供たちが歩いています。災害があったら落ちてくると心配していますが個人の土地です。市で規制できませんか。

また、自分の子どもが重い障がいがあります。10万人に1人という難病で、両手が欠損して生まれてきました。田舎の特性もあり最初に皆さんすごく気を使ってくれましたが、プラスで聞いてくれる人がいませんでした。生まれてすぐ救急搬送されて、話を聞いてくれる人や寄り添ってくれる看護師もなくて1人残されて、涙が出ました。岐阜の医療センターに転院したときに、障がいを持って生まれてくるお子さんもたくさん受け入れているからすぐに寄り添ってくれ、はじめて自分の気持ちを聞いても

らえて嬉しかったです。田舎ではそんな出会いの場が無いです。中津川市の病院では、そのような子は受け入れてくれなくて、春日井市のコロニーや大府の小児医療センターなど遠い病院に通っています。医療の充実はとても大変なので、遠い病院に通うのも構わないし、ネットで情報収集もできますが、そういう子供たちが行ける場がないことが辛いです。まず相談できる人がいない、つれていける場がない、保育園に入れれないという壁にぶつかっています。今、年中ですが、保育園にも行けません。産まれた時に、私は一生介護で外に出ることもできずに過ごすんだと思っていましたが、全国のお母さんはみんな明るくて一生懸命頑張っていて、出ていく場もいっぱいあり、前向きです。中津川はまだお母さん同士のつながりも薄くて情報がつながらない。管から栄養を入れているので保育園も医療行為が必要だといけないとか、子供が大切な育ちの時期に他の子どもと関係が持てないのは親としても悲しいし、子どもとしてもすごくマイナスです。なんとか交流させてくださいと、週一回保育園へ行かせてもらっています。それもみんなに保障してもらっているのではなくて、言ってきたお母さんだけ交流させてもらっている。発信できずに内にこもってしまう人や、障がいがあることを言えないお母さんもいるので、行政として障がいをプラスに捉える何かができないかなと思います。例えば、中津川市は音楽の街としてイベントをやっていますが、そんな時、障がいがある子のお母さんは行ったらうるさくて迷惑かけるのではないかと参加できない。それをどんなふうでも来て良いよってアピールしてもらおうなどです。中津川市には発達支援センターの「つくしんぼ」がありますが、通っているお母さんから「つくしんぼ」に対するイメージが悪いなどの意見がありました。障がいがあるとかその子に問題があるというレッテルを貼られるみたいに思っていたり、ご年配のおじいちゃん、おばあちゃんはそういうレッテルを貼られるから行かない方が良くと言われてたりします。例えば、広報で「つくしんぼがこんな楽しいことやっているよ」というアピールをしてもらえないかという意見も出ていたりします。障がいのある子供たちが一緒に育ち合える中津川市づくりを行政も一緒に考えてもらえたら嬉しいです。

市長

今言われたようなことを私の近くでも2回ほど経験しています。私の知り合いの方のお孫さんについてですが、お母さんは特別な学校へ通わせたいけど、おじいちゃんは普通の学校へ行かせたいということでした。まさに言われた通りです。これからの中津川市と障がいを持たれる方の関係、またネットワーク、そして周りの人に理解して頂くことが重要です。周りの人の理解がなければその子のためという話に結びついていかない。我々も協力させていただきますので、お願いします。

それから太陽光の問題。東日本大震災から再生エネルギーが良いという流れからできたのですが、売電の関係などで商売となってしまうため、行政の規制が後手になってしまう。今、市の許可、県の許可と別れていますが、厳しい内容にはなっていません。業者もやりますといいながら全然やらない。現段階ではペナルティがない。そのため行政も市長会を通して、国に規制をかける法律を作って欲しいと要望しています。岩が落ちてきそうなところや伐採をしていつ水が流れ出すかわからないところには改善を指導しなければならないと考えてまとめているところです。

・〇〇さん

中津川市は高齢化率が81.4市のなか27.9位です。人口減少率は31.8位と低いわけではありません。その中で15歳から64歳までの生産年齢人口率が59.0位ということが問題だと思います。

中津川市に魅力を持ってここで育てたいと思うのであれば、定住して名古屋の職場に通うことも可能です。そういったなかで、子育ての問題も多いですが、高齢化、介護の問題や坂下病院だけでなく、中津川市民病院も常勤医師が少なく、いつでもこの病院にかかれるわけではない。高齢者、親の介護問題などの不安があって中津川市に戻りたくないという人が多くて人口が少ないのではないかと思います。そういったところを少しずつ直していき、子供たちが大きくなった時に、不安は多少あるけど、自分の子どもをここで育てていきたいという思いの方が強い市になったらいいと思っています。

市長あいさつ

ありがとうございます。トータル的なバランスが必要だと言うのはそこなのです。若い人は仕事がないといいますが、選択肢がなく自分のやりたい仕事がないということです。そのため、生産労働人口の割合が一番低い。「企業誘致」という言葉でひとくくりにしてしまっていますが、いま中津川市にある企業にきてもらってもそれは大きく変わるわけではない。他の分野、若い人の選択肢が広がるような企業に来ていただくことが効果として大きい。そのため総合計画の中であえて中津川市に無い産業の誘致に力を入れています。病院問題も坂下病院の問題だけでなく、市民病院の医師確保が非常に課題です。7年前に内科の医師が引き上げて以来、常に綱渡りのやっている現状があります。まず、どうしたら中津川市の医師を確保することができるかが根底にある。これが検討委員会の方針になっていくわけです。さらにその方針を私が噛み砕いてこうあるべき、という形を作っていかなければならない。スーパー高度医療は東京、名古屋、大阪しかなくて、次の高度医療は地方の中核都市です。そして、かかりやすい病気で、ある程度高度な技術を要するものについては、東濃では多治見市が位置づけられています。中津川市は多治見市へ行けば良いというのが1つの流れでしたが、それはちがいます。合併して広いまちになりました。また、木曾の我々に対する依存度も高い。東濃東部は恵那市、中津川市は総合病院的な位置づけをしてほしい。県はそれを認めてくれています。現在中津川市は2つの病院があるわけです。中津川市民病院自体の医師確保、看護師さんたちの医療スタッフの確保、これらに不安を感じながらやっている現状です。これを将来、若い人にバトンタッチできる状態にする。また、総合病院としての機能を果たすため、医療機器の導入も必要です。それを踏まえて病院のありかたを考えています。12月に結論を出さなければならず、非常に悩ましいです。これからのまちづくりで、より多くの方に私の出した結論が納得はできなくても、理解はしていただかないと、これからの若い方が安心して住んでいただける取り組みがなかなかできません。名大は何度も市民病院の医師確保に行っていますが、坂下病院の話もしています。総合的に考えながらやっています。

住みやすいまち日本一と言われる富山なども視察し、事業を参考にさせていただいたり、富山に負けないぞという取り組みをしている自治体も多くあります。その流れに中津川市も乗り遅れてはいけないという方向です。小さなお子さんも皆さまの年代になった時に、現在ある問題は解決したうえで、次のステップでやっていただかねばならない。これが自治体の生き残り、継続性と考えています。

小さいお子さんが皆さまの年齢になった時にあるべき中津川の姿。そうした街の実現をしていかなければいけない。すべての状況が標準より上となって初めて中津川市の魅力がでると思っています。一部分だけ飛びぬけたまちは中津川市には向きません。1市7町村の8つの自治体が一緒になって、12年しか経ってないわけです。これから中津川市のまちづくりの核心に入ります。皆さんとの意見交換で参考にさせていただくこともたくさんあります。先ほど約束させていただいた会議についても

別に開催させていただきますので、よろしく申し上げます。ありがとうございました。